

今市エリアにおける「まちの縁側」の推進

エリア：日光市(旧今市市) 下野大沢駅周辺

パートナー：日光市社会福祉協議会

16班

コミュニティデザイン学科

建築都市デザイン学科

社会基盤デザイン学科

原田真悠

半澤佑紀

川合拓実

中山紘希

栂谷拓未

背景

地域コミュニケーションの希薄化

生活スタイルや価値観の多様化に伴い、地域内での交流が乏しい。

「サロン」では担い手の負担が大きい

サロンでは担い手の負担が大きく、開催頻度やスケールに担い手の度量などが大きく影響する。また、参加者が固定してしまう。

目的

新たな交流の形である「まちの縁側」の推進

担い手の負担が少ない「まちの縁側」を推進し、従来のサロンと併用することで地域内交流の促進を図る。

地域情報の集約

交流を促すことで、地域内の困りごとといった情報を専門機関へ届ける。

調査方法と分析結果

1stcycle~3rdcycleで何度も現地へ足を運び、調査を行ってきた。主に地域の現状を把握するものを1stcycle~2ndcycleで行い、9/2にはまちの縁側講座に出席して地域の方へのヒアリングを行うとともに「まちの縁側」についての事例を学び理解を深めた。

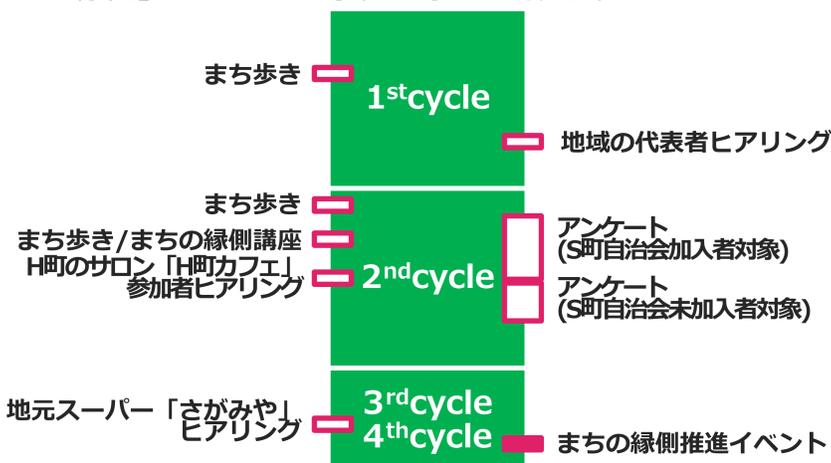


図2 一年間の動き

3rdcycleの地元スーパーへのヒアリングは、アンケートなどの結果からスーパーが交流拠点になっていること、そしてスーパーにはモノが充実した団らんスペース(※テーブル、椅子、テレビ、Wi-Fi、電子レンジ、コンセントなどが整備されており、無料で飲み物も頂ける場になっている。)が設けてあったことから、現在の利用状況や今後の活用法などについての調査を行った。

提案

このプロジェクトはまちの縁側として認定した場所を、8年後に500か所にまで増やそうという目標を掲げている。しかし、ただ数を増やせばいいというものではなく目的は地域交流の場をつくることである。そのため認定後もまちの縁側としての機能の改善を図りながら、継続的な利用状況の確認が必要であると考えている。

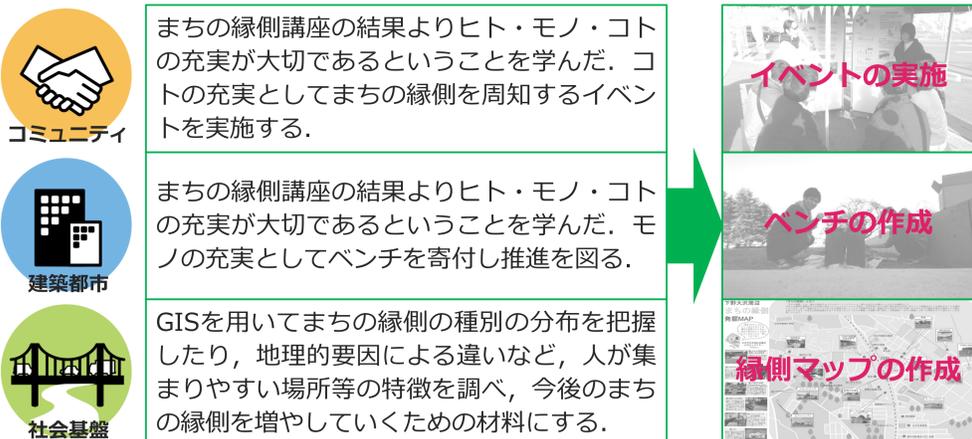


図4 学科ごとの提案内容と実施内容

プロジェクトの概要

まちの縁側とは

自然発生的に人が集う場のことであり、昔ながらの日本の家屋にある「縁側」のように、お茶を飲みながらコミュニケーションを図ることができる場などを指す。近所のお茶会や井戸端会議、公園のベンチ、お店やスーパーの休憩所などが例に挙げられる。

対象とするエリア

まちの縁側は旧今市市の全エリアを対象範囲としてプロジェクトの推進を行っており、今回私たちが1年間かけて調査・提案するのは今市エリアの中の「下野大沢駅周辺」である(図1)。下野大沢駅周辺は、スーパーやコンビニ、銀行、診療所などが揃っており比較的生活しやすい環境である。



図1 JR下野大沢駅の位置と駅周辺の写真

まち歩き(5/15.8/10.9/2)

地域の代表者ヒアリング(6/5)

H町サロンヒアリング(9/30)

- ・新興住宅が多い
- ・昼間でもカーテンを閉めるなど閉鎖的
- ・自治会によってイベントや公民館所有の有無などに差
- ・サロンの活動状況

アンケート S町自治会加入者 (8/25-9/25)
回答数：67/132
回答率：51%

アンケート S町自治会未加入者 (9/15-9/30)
回答数：4/37
回答率：11%

Q9.S町の悪いところ・不便なところは 何だと思えますか(自由記述)

大病院がない	6
防犯対策がされていない	4
道路狭い	3
交通が不便	4
活気がない	5
交流の場がない	7
飲食店がない	5

交流の場がないと答えた方(7名)が家族以外との交流の場として挙げたのがスーパーであった。
なお全データでの家族以外との交流の場での上位に来たのは自宅、友人宅でありスーパーは3番目であった。

まちの縁側講座 (9/2)

地元スーパーヒアリング(1/8)

先例であるながのの事例から、「モノ・ヒト・コト」の充実が推進には必要不可欠であることがわかった。

ヒト	ヒトの育成	既に社協が取り組んでいる
モノ	モノの充実	ベンチなどの充実
コト	コトづくり(きっかけづくり)	イベントの開催などでの周知

新規利用者を含む利用者の拡大に悩んでおり、単にモノの充実を行ったとしても利用者を拡大できないかもしれないということがわかった。

図3 調査結果

提案のその先：4thcycle

私たちの班は、多くの方々のご協力のおかげもあり提案にとどまらず実施に至ることができた。まずはモノの充実としてベンチを作成した。次に、コト(きっかけづくり)として作成したベンチの完成&設置セレモニーを行い地域の方々へのまちの縁側の周知とともに1年間の活動報告を行った。また、縁側マップは今後まちの縁側と認定された場所が増え次第作成する予定でいるため、今回のものはサンプル版になっている。このマップを作成・活用することでまちの縁側が見える化できるため、今後のまちの縁側に関する分布等の情報の分析に役立ち、推進にもつながると考えている。



図5 イベント時の写真

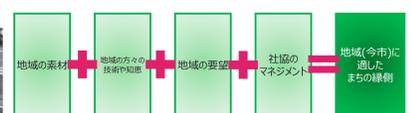


図6 モノの充実の目標